

サブドレン他水処理施設の運用状況等

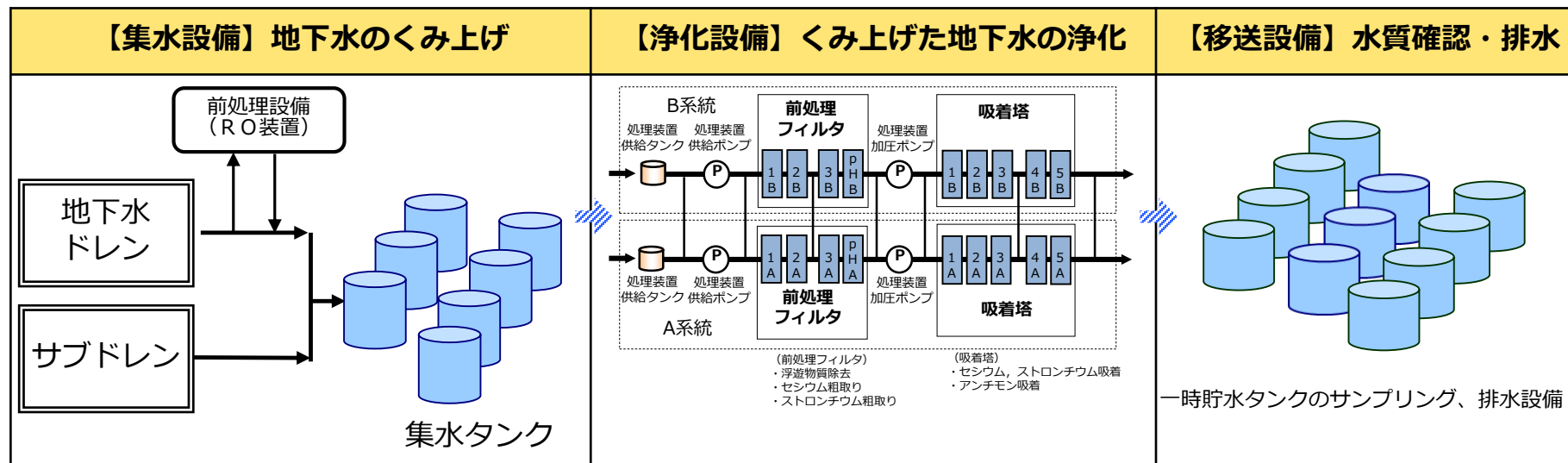


2025年 12月 25日

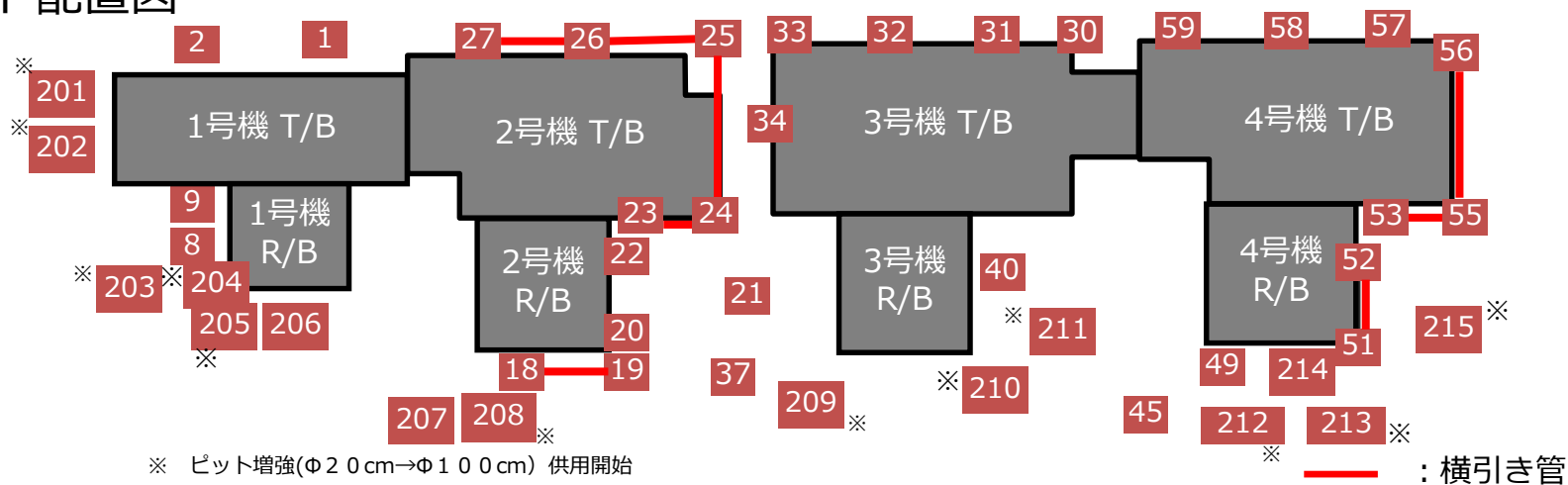
東京電力ホールディングス株式会社

1-1. サブドレン他水処理施設の概要

・設備構成

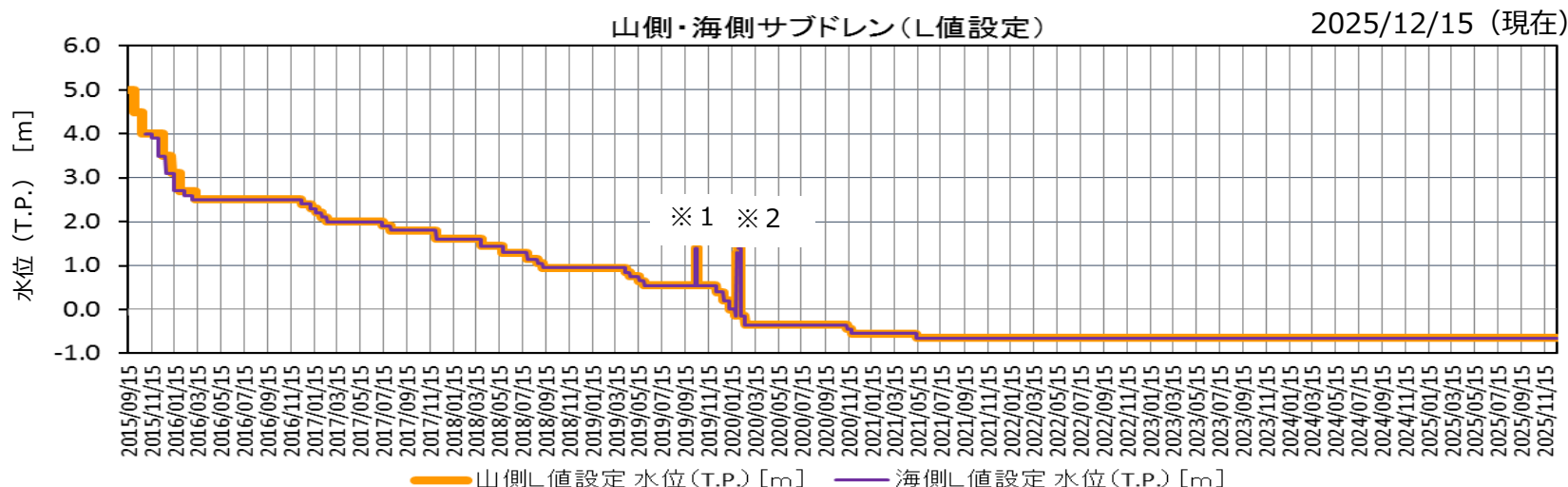


・ピット配置図



1-2. サブドレンの運転状況（24時間運転）

- 山側サブドレン設定水位のL値をT.P.+5,064mmから稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年9月17日～、L値設定：2021年5月13日～T.P.-650mmで稼働中。
- 海側サブドレンL値をT.P.+4,064mmから稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年10月30日～、L値設定：2021年5月13日～T.P.-650mmで稼働中。
- サブドレンピットNo.30,37,57を復旧し、2018年12月26日より運転開始。No.49ピットは復旧後、2020年10月9日より運転開始。
- サブドレンピットNo.21は、2号機燃料取り出し構台の設置工事に干渉するため、移設を行い、2022年10月7日より稼働を開始した。
- サブドレンNo.40ピットにて2022年4月21日に油分（低濃度PCB含有：0.56mg/kg）をうけ、周辺ピット（No.40,210,211ピット）の停止及び油分拡散抑制として、鋼矢板の設置等を行い、2023年10月2日よりNo.210,211ピットを再稼働し、2023年11月8日から連続運転に移行した。
- その他トピックス
 - ・ 10/31～11/1にかけて、震災後最大となる48.5mm/時の降雨影響によりNo.206の水位が急上昇した。No.206は、震災後当初の小口径（φ200）ピットで、現在のピット設置状況から雨水が集まりやすく、水位上昇が起こりやすい状況であるため、今後、その対応として、大口径（φ1000）の増設ピットへの変更を実施していく計画である。



※1 台風19号対応として10月12～15日の間、一時的に全ピットのL値をT.P.1400mmに変更した。

※2 1月の大雨に備えて基本のL値をT.P.1300mmとし、2月7日に水位設定値を元に戻した（L値:T.P.-0.15 m）

1-3. 至近の排水実績

- サブドレン他水処理設備においては、2015年9月14日に排水を開始し、2025年12月15日までに2,840回目の排水を完了。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）を満足している。

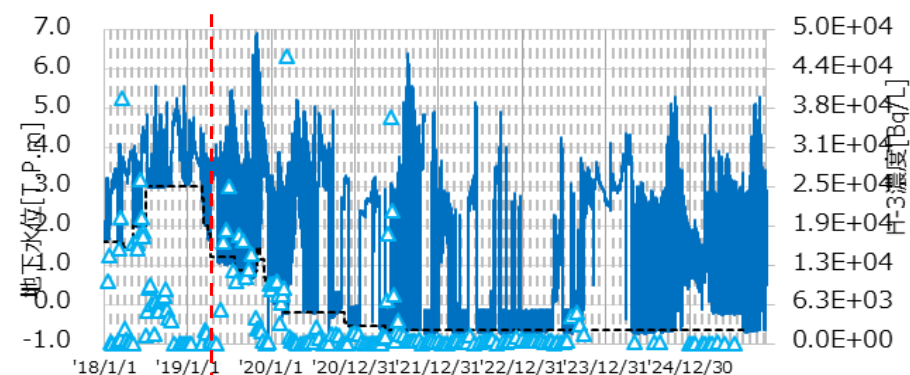
排水日		12/7	12/10	12/11	12/13	12/14
一時貯水タンクNo.		J	F	G	E	H
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	12/1	12/4	12/6	12/7	12/9
	Cs-134	ND(0.62)	ND(0.69)	ND(0.90)	ND(0.75)	ND(0.72)
	Cs-137	ND(0.57)	ND(0.86)	ND(0.82)	ND(0.82)	ND(0.59)
	全β	ND(0.68)	ND(1.8)	ND(1.8)	ND(1.7)	ND(0.71)
	H-3	560	610	620	640	690
排水量 (m ³)		507	642	524	514	499
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	11/29	12/2	12/4	12/5	12/7
	Cs-134	ND(4.6)	ND(4.1)	ND(5.8)	ND(4.6)	ND(5.0)
	Cs-137	130	130	140	120	130
	全β	—	370	—	—	—
	H-3	570	610	640	680	700

* NDは検出限界値未満を表し、() 内に検出限界値を示す。

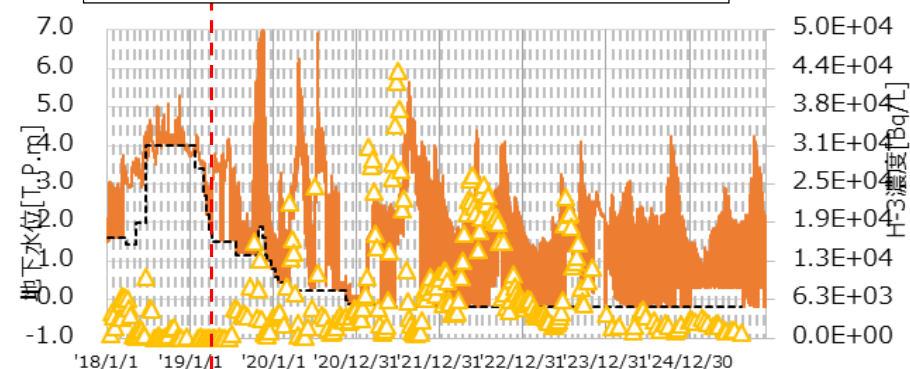
* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

【参考】 1/2号機排気筒周辺サブドレンピットの水質

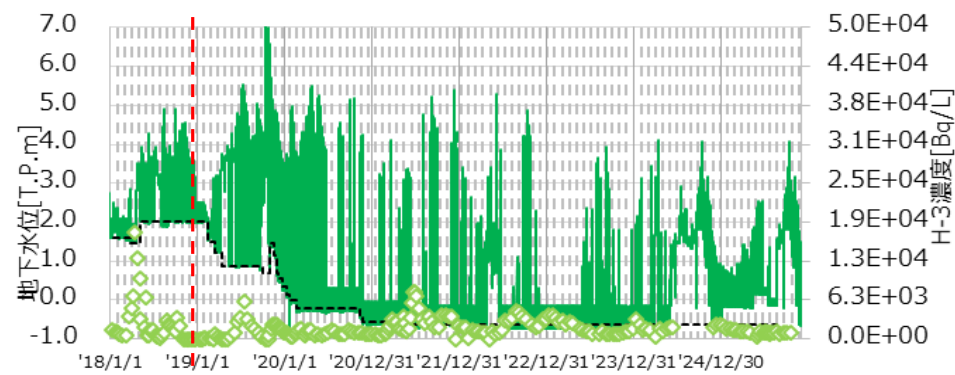


(凡例) — SD206 --- L値 △ SD206 H3濃度

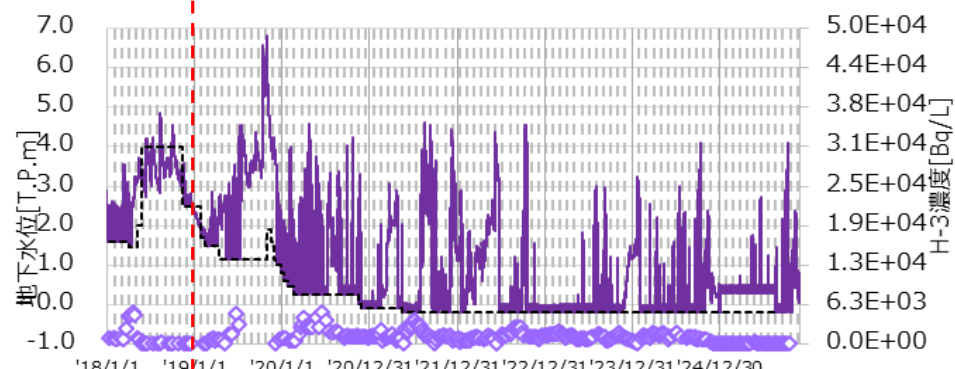


(凡例) — SD205 --- L値 △ SD205 H3濃度

2019/2/6地改良完了



(凡例) — SD207 --- L値 ◇ SD207 H3濃度



(凡例) — SD208 --- L値 ◇ SD208 H3濃度

2018/11/6地盤改良完了